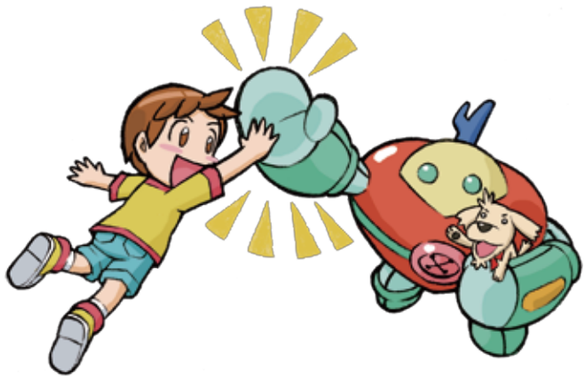
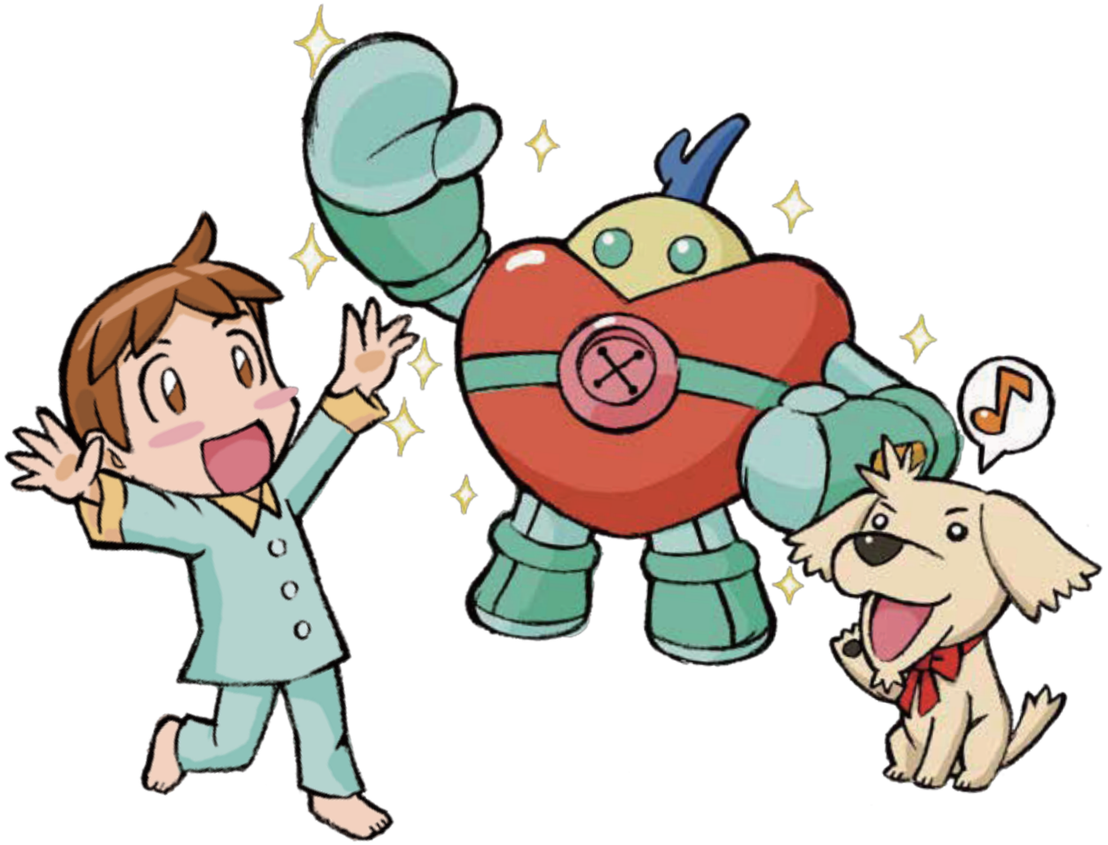
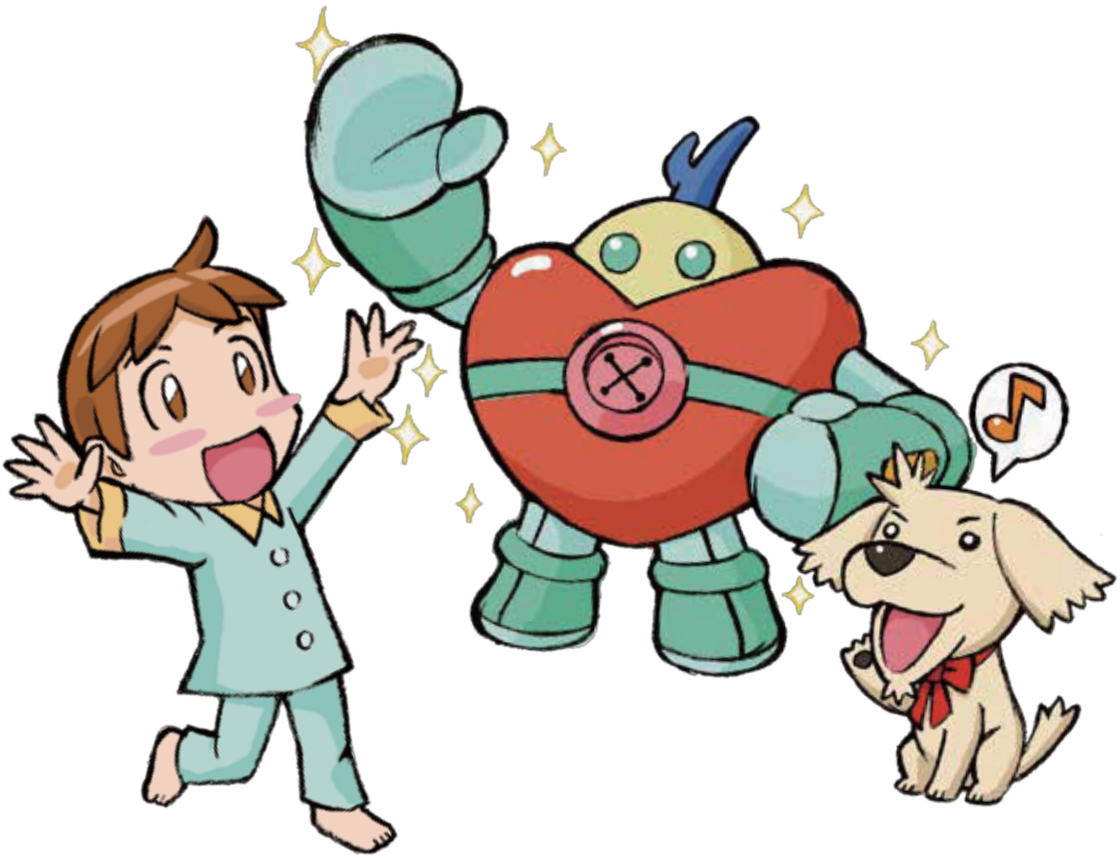


ハッピーロボとハイタッチ



ハッピーロボとハイタッチ



おとうさんが　ゆうきちゃんに　おみやげをかってきてくれました。
ちいさなロボットの　にんぎょうです。

「このロボットは　ハッピーロボといって、いっしょにねむると
いいゆめをみることが　できるんだよ」

ゆうきちゃんは
どんな　ゆめがみられるのかと
わくわくしました。

ところがよくあさ　ハッピーロボが、
ゆうきちゃんと　おなじくらいのおおきさに　なっていたのです。

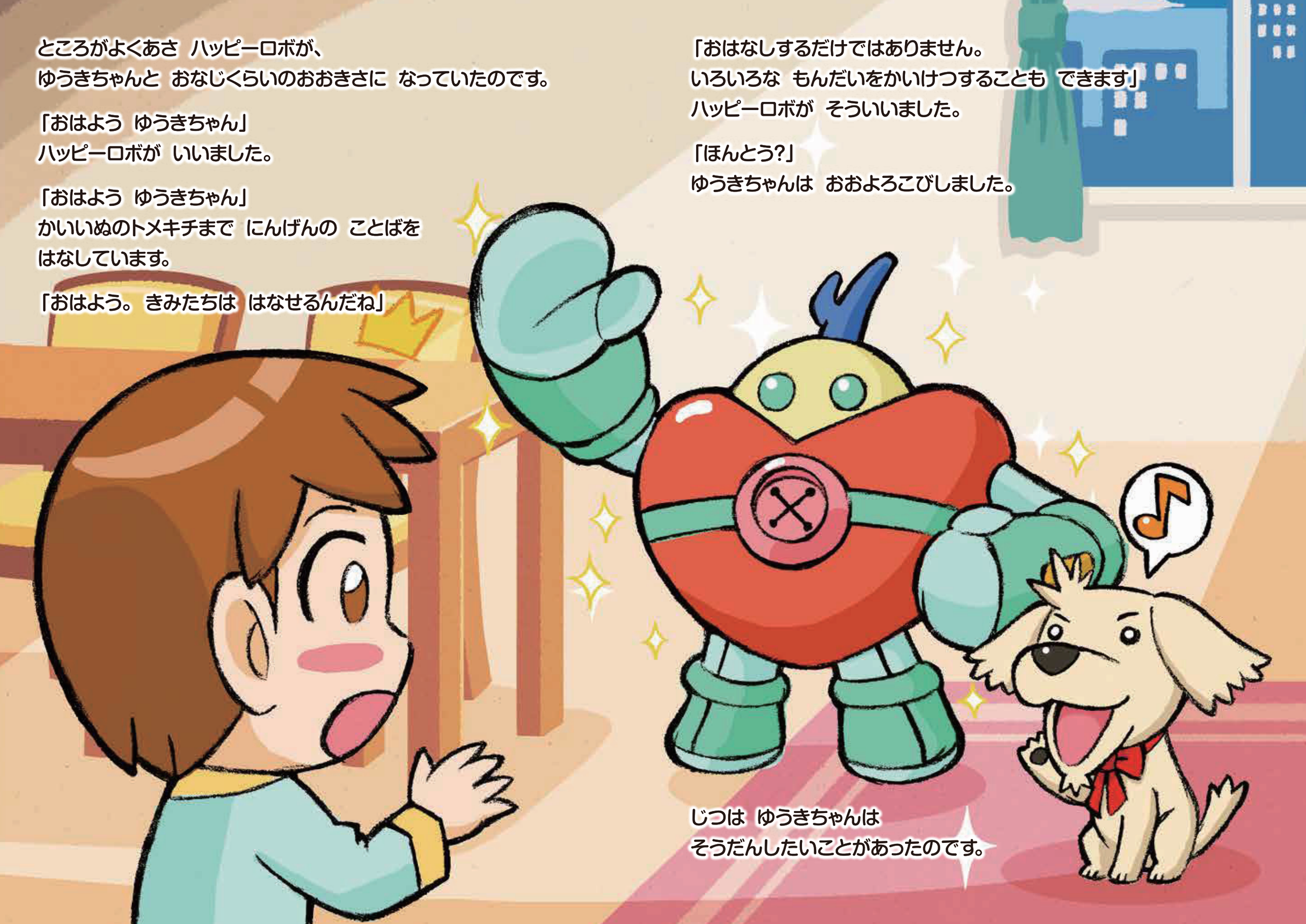
「おはよう　ゆうきちゃん」
ハッピーロボが　いいました。

「おはよう　ゆうきちゃん」
かいいぬのトメキチまで　にんげんの　ことばを
はなしています。

「おはよう。　きみたちは　はなせるんだね」

「おはなしするだけではありません。
いろいろな　もんだいをかいけつすることも　できます」
ハッピーロボが　そういいました。

「ほんとう?」
ゆうきちゃんは　おおよろこびしました。



じつは　ゆうきちゃんは
そうだんしたいことがあったのです。

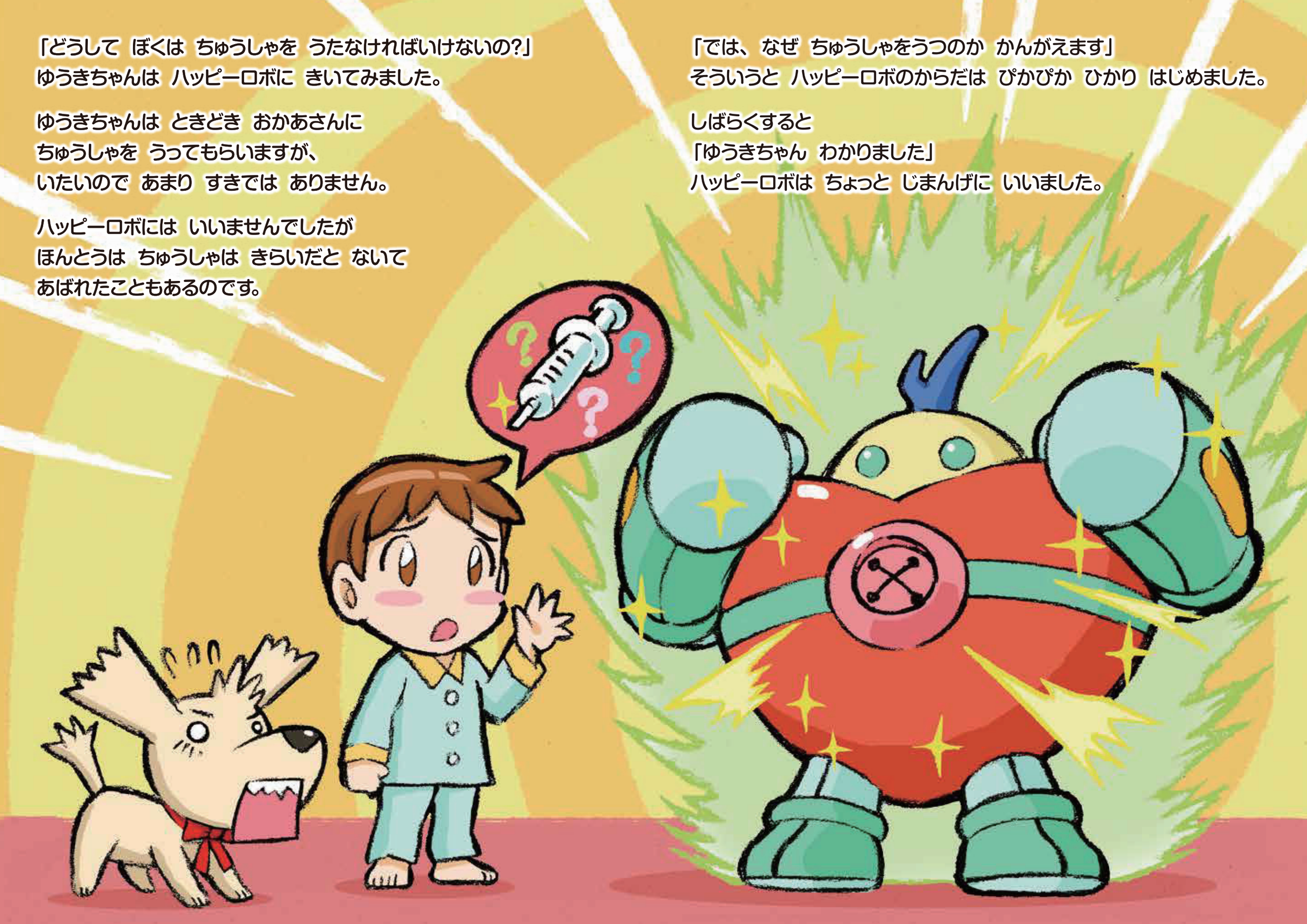
「どうして ぼくは ちゅうしゃを うたなければいけないの?」
ゆうきちゃんは ハッピーロボに きいてみました。

ゆうきちゃんは ときどき おかあさんに
ちゅうしゃを うってもらいますが、
いたいので あまり すきでは ありません。

ハッピーロボには いいませんでしたが
ほんとうは ちゅうしゃは きらいだと ないて
あばれたこともあるのです。

「では、なぜ ちゅうしゃをうつのか かんがえます」
そういうと ハッピーロボのからだは ぴかぴか ひかり はじめました。

しばらくすると
「ゆうきちゃん わかりました」
ハッピーロボは ちょっと じまんげに いいました。



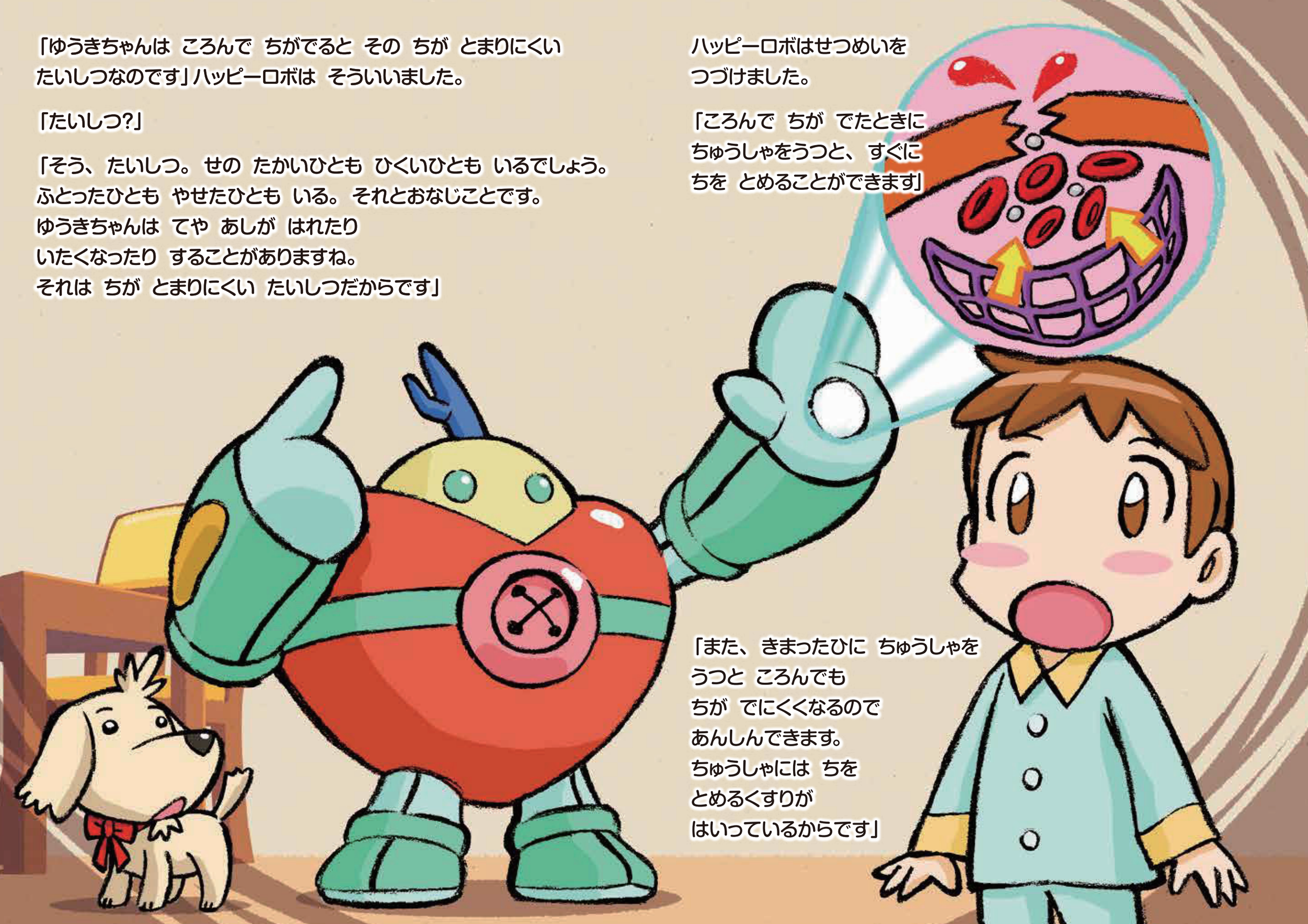
「ゆうきちゃんは ころんで ちがでると その ちが とまりにくい
たいしつなのです」ハッピーロボは そういいました。

「たいしつ?」

「そう、たいしつ。せの たかいひとも ひくいひとも いるでしょう。
ふとったひとも やせたひとも いる。それとおなじことです。
ゆうきちゃんは てや あしが はれたり
いたくなったり することがありますね。
それは ちが とまりにくい たいしつだからです」

ハッピーロボはせつめいを
つづけました。

「ころんで ちが でたときに
ちゅうしゃをうつと、すぐに
ちを とめることができます」



「また、きまったひに ちゅうしゃを
うつと ころんでも
ちが でにくくなるので
あんしんできます。
ちゅうしゃには ちを
とめるくすりが
はいっているからです」

「でも　きんじょのおともだちのなかで
ちゅうしゃをうっているのは　ぼくだけだよ」
ゆうきちゃんは　まだ　ふまんそうです。

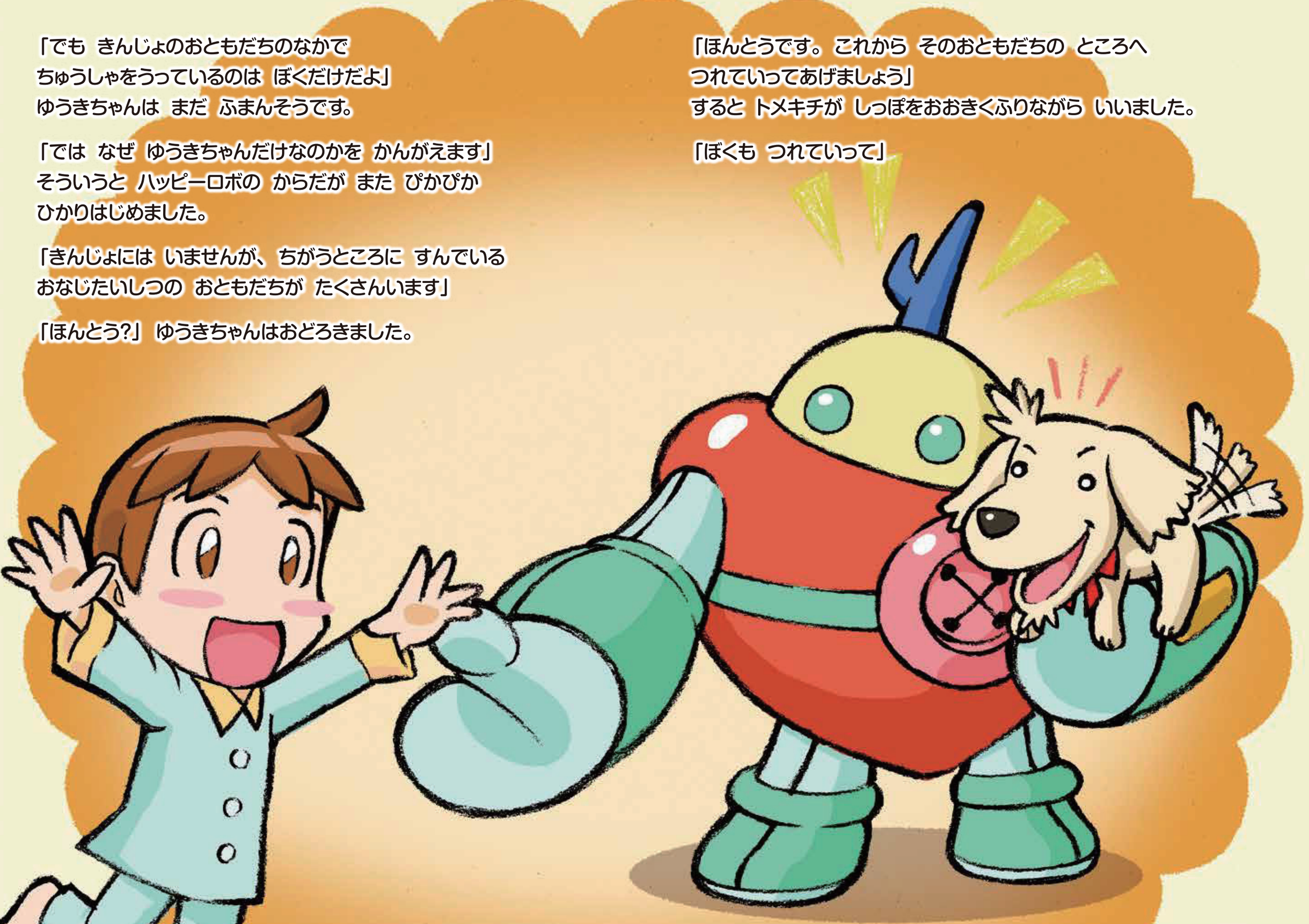
「では　なぜ　ゆうきちゃんだけなのかを　かんがえます」
そういうと　ハッピーロボの　からだが　また　ぴかぴか
ひかりはじめました。

「きんじょには　いませんが、ちがうところに　すんでいる
おなじたいしつの　おともだちが　たくさんいます」

「ほんとう?」　ゆうきちゃんはおどろきました。

「ほんとうです。これから　そのおともだちの　ところへ
つれていってあげましょう」
すると　トメキチが　しっぽをおおきくふりながら　いいました。

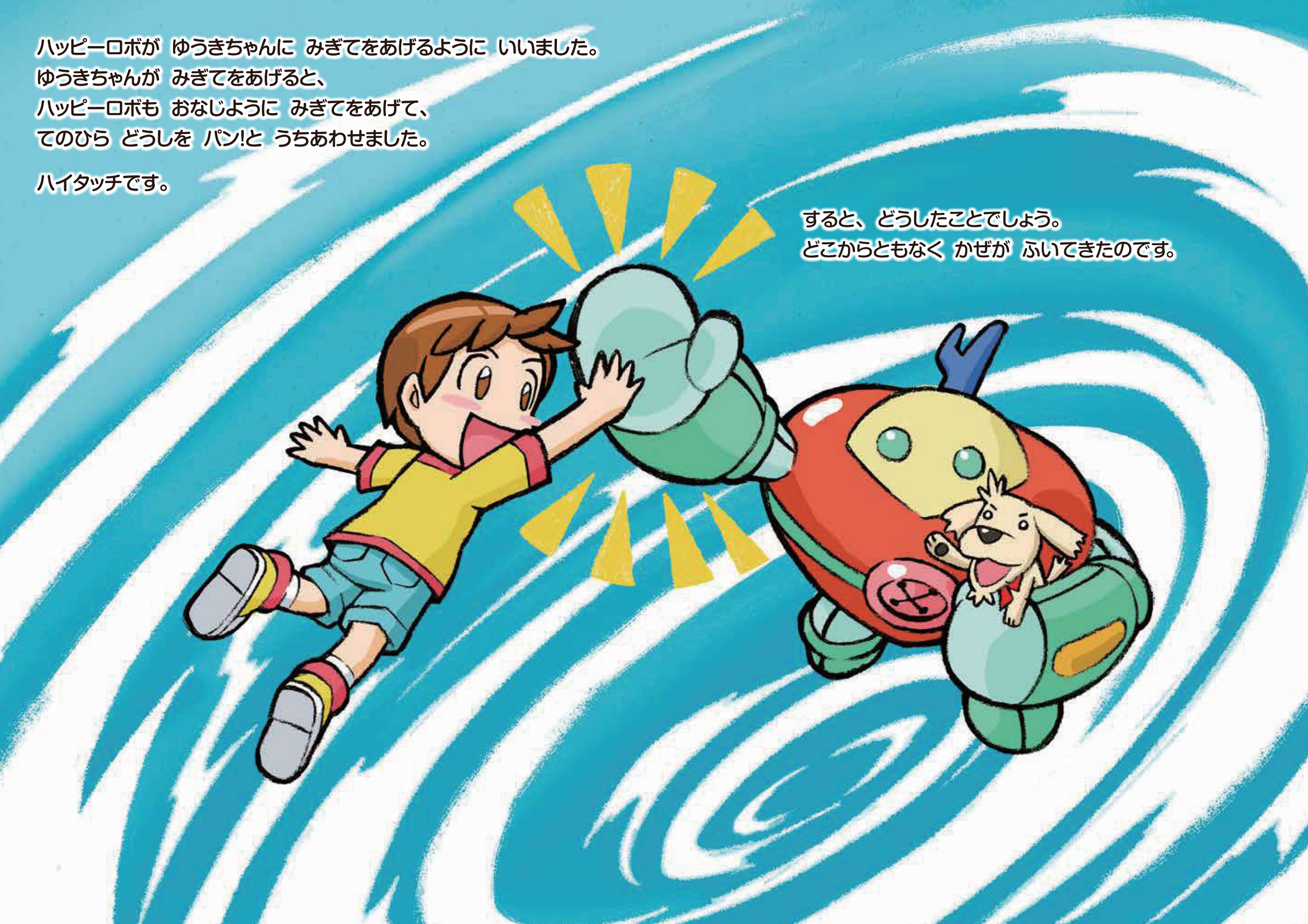
「ぼくも　つれていって」



ハッピーロボが ゆうきちゃんに みぎてをあげるように いいました。
ゆうきちゃんが みぎてをあげると、
ハッピーロボも おなじように みぎてをあげて、
てのひら どうしを パン!と うちあわせました。

ハイタッチです。

すると、どうしたことでしょう。
どこからともなく かぜが ふいてきたのです。



ふと きがつくと ゆうきちゃんは ちいさな こうえんに いました。
すると すべりだいから おとこのこが
すべりおりてきて ゆうきちゃんの まえに たちました。
しらない おともだちで ゆうきちゃんより ひとつか ふたつ、
としうえに みえました。

「こんにちは。ぼくは いま ちがとまりにくい
たいしつのおともだちを さがしているのだけれど」

ゆうきちゃんが そういうと、おともだちは あかるいこえで
こたえました。
「こんにちは。ぼくも ちがとまりにくい たいしつだよ。
でも きまった ひに ちゅうしゃをうっているから だいじょうぶなんだ」

じぶんと おなじたいしつの おともだちがいるとわかり、
ゆうきちゃんは とても あんしんしました。

「では つぎの おともだちのところに いきましょう」
ハッピーロボと ゆうきちゃんは みぎてをうえにあげました。
ハイタッチ。

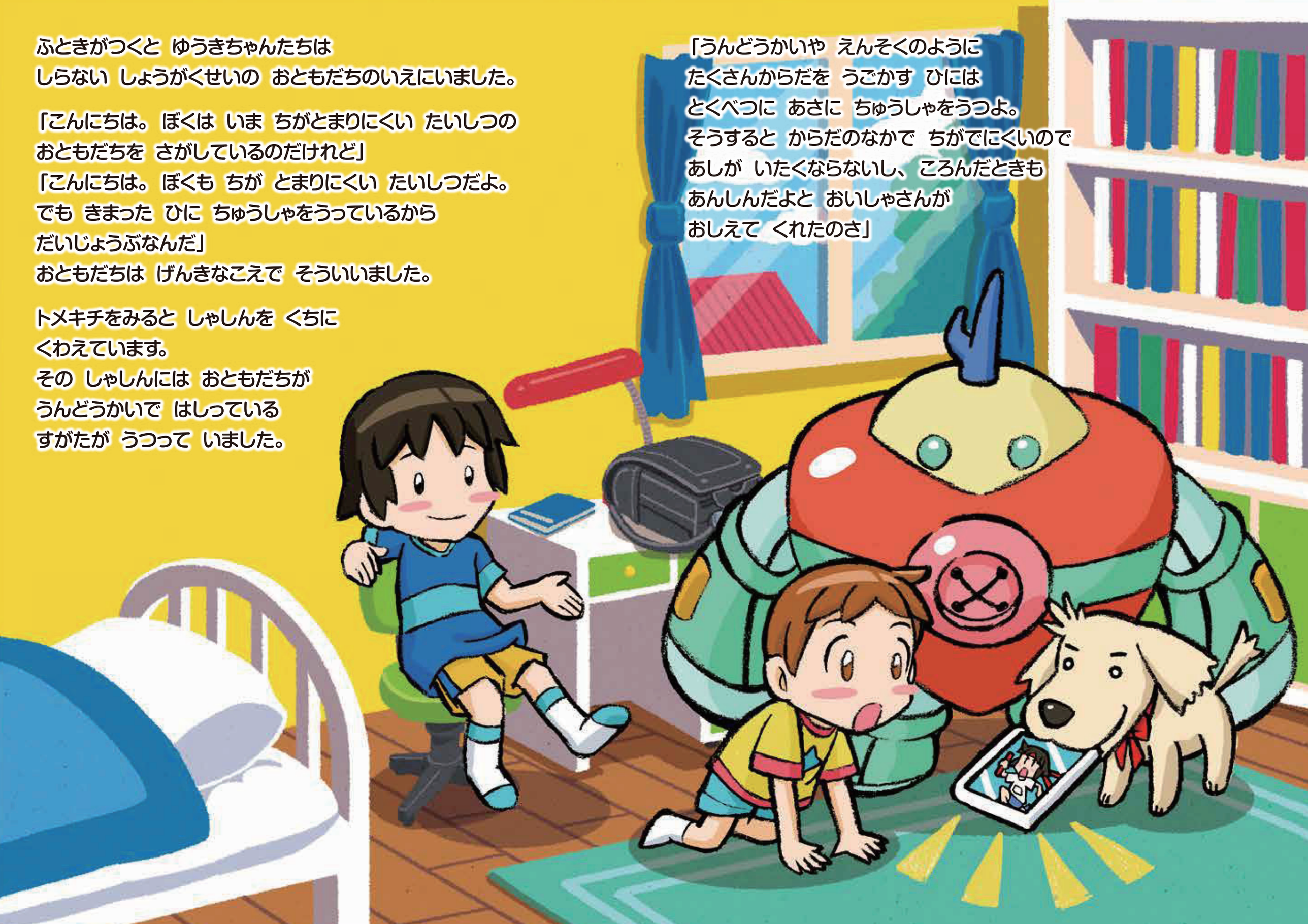
また どこからともなく かぜが ふいてきました。

ふときがつくと ゆうきちゃんたちは
しらない しょうがくせいの おともだちのいえにいました。

「こんにちは。ぼくは いま ちがとまりにくい たいしつの
おともだちを さがしているのだけれど」
「こんにちは。ぼくも ちが とまりにくい たいしつだよ。
でも きまった ひに ちゅうしゃをうっているから
だいじょうぶなんだ」
おともだちは げんきなこえで そういいました。

トメキチをみると しゃしんを くちに
くわえています。
その しゃしんには おともだちが
うんどうかいで はしっている
すがたが うつって いました。

「うんどうかいや えんそくのように
たくさんからだを うごかす ひには
とくべつに あさに ちゅうしゃをうつよ。
そうすると からだのなかで ちがでにくいので
あしが いたくならないし、ころんだときも
あんしんだよと おいしゃさんが
おしえて くれたのさ」



それから ゆうきちゃんは ハッピーロボと ハイタッチして、
なんにんかの おともだちに あいました。
ほとんど おとこのこでしたが おんなのこも いました。
がいこくの おともだちも いました。
みんな ちゅうしゃを うっている おかげで、
げんきに スポーツをしたり あそんだりしているようでした。

そして ゆうきちゃんは、じぶんの いえに もどってきました。

ところが。

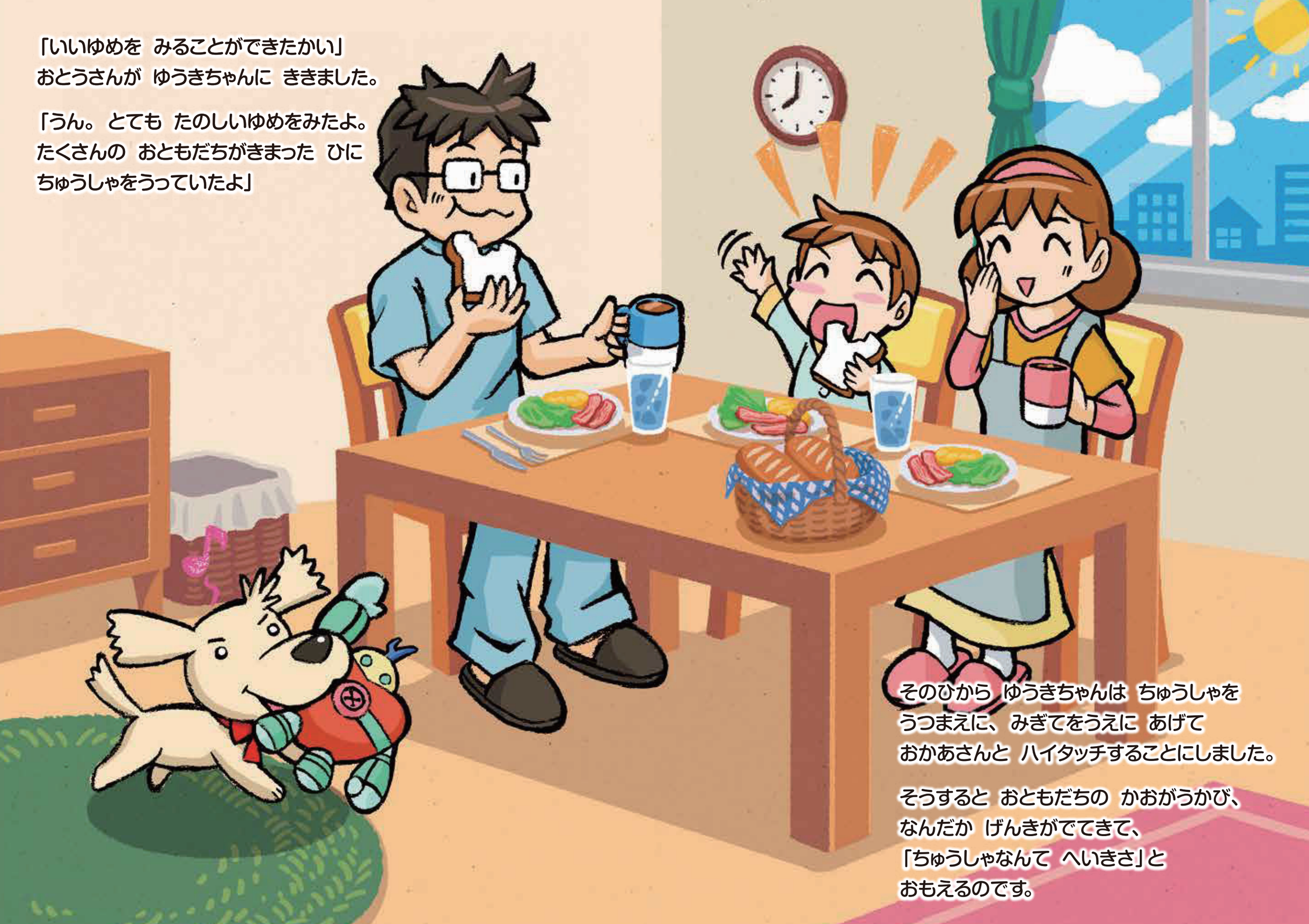
ハッピーロボが むねの マークを むらさきいろに ひからせています。
「たいへんです。トメキチを どこかの
おともだちの いえに
おいてきて しまいました」

「すぐに もどって、トメキチを
つれもどして」ゆうきちゃんは
あわてて ハッピーロボに
おねがいしました。

「こまるよ、だめだよ、トメキチは
だいじな かぞくなんだから。
トメキチ、トメキチ」

「どうしたの？ トメキチなら ちゃんと おうちにいますよ」

ゆうきちゃんが めを さますと、
おかあさんが わらっています。
どうやら ゆうきちゃんは
ゆめを みていたようです。



「いいゆめを　みることができたかい」
おとうさんが　ゆうきちゃんに　ききました。

「うん。　とても　たのしいゆめをみたよ。
たくさんの　おともだちがきまった　ひに
ちゅうしゃをうっていたよ」

そのひから　ゆうきちゃんは　ちゅうしゃを
うつまえに、　みぎてをうえに　あげて
おかあさんと　ハイタッチすることにしました。

そうすると　おともだちの　かおがうかび、
なんだか　げんきがでてきて、
「ちゅうしゃなんて　へいきさ」と
おもえるのです。

ハッピーロボとハイタッチ

非売品

2016年2月初版　第1刷発行
2017年9月改訂
2019年5月改訂

監　　修　　瀧 正志(聖マリアンナ医科大学 小児科学 特任教授)
作　　画　　株式会社 レイアップ
企画・制作　　株式会社 真和

発　　行　　サノフィ株式会社
〒163-1488　東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
https://www.sanofi.co.jp/ja

GZJP.HEM.19.04.0269
2019年5月作成